

山口県立大学国際文化学部における履修カルテとしての eポートフォリオ開発と導入の試みについて

岩野雅子, 宇田川暢*

*教育研究推進室, システムエンジニア

1. eポートフォリオとは

eポートフォリオとは、学生の学びの記録を所定の書式に整理して保存し、共有することのできるシステムであり、ICTを活用したデータベースをさす。学内において学生と教職員間で「履修カルテ」として共有し、履修指導を行ったり、学生自らが学びのPDCAサイクルを回していくためのよりどころとする場合もあれば、学生自らが自己の学習成果を学内外に発信し、ポートフォリオとして幅広く自己アピールを行ったり、他者との情報交換を行ったりする中でソーシャルネットワークを構築するツールとして利用する場合もある。本学部で試みたのは前者である。また、大学によっては、学生の承認のもとでこれらの記録の一部をIR (Institutional Research:インスティテューショナル・リサーチ) に活用し、授業改善のためのデータや長期的な教育成果のデータ、教育と卒業後のキャリアパスとの関係性に関するデータなどを集積し、分析する場合もある。そうやって蓄積されたデータにより大学教育改革を進めることができ、優れた教育成果や学生モデルを他に公開することで大学ブランドをつくっていくこともできる。

一般的に、eポートフォリオでは学習成果管理やキャリアにかかわるプロフィール管理、自己PR資料の作成、SNS、データ検索などの機能を有している。セキュリティを考慮した上で教務に関連する学生管理システムと一体化させている場合は、学生にとっても日々の授業で活用でき、一つのシステム上で様々な学習活動が展開できる便利なツールとなり、教職員側にも使いやすい。しかしながら、数年間の契約による大学側の履修管理システムがある一方で、各部署においてLMSやe-learning、SNS等をあとから追加していくケースが多いため、異なるシステムを別々に運用せざるを得ない事例が多いようである。本学も全学で運用する履修管理システム (YPUポータル) のほかに、大学全体で他大学と共用で運用するLMS (3大学連携 e-quality仮想的大学) があり、その他、2011年度に運用を始めた国際文化学部のLMS (WEBかるちゃー)、2012年度に追加した国際文化学部のeポートフォリオ (Progress Sheet) へのアクセス窓口が別々に開設されているという現状にある¹。

本稿では、eポートフォリオ作成と運用に関する課題を整理し、大学全体としての今後のありかたについて学部からの視点をまとめることを目的とした。その背景には、2012年度から開始した第2期中期計画ならびに第2期国際化推進方針、同年に採択された文部科学省グローバル人材育成推進事業 (特色型) がある。これらの計画では、学生が身につける力や学生に求める学習活動の結果をデータとして集積し、学生自身にも教職員にも見える形で提示することを求めている。教育成果の可視化を通して、学生の自主的な学びのサイクルが動きだし、教職員の教育改革が進むことを目指すためには、多様なデータを一元化して集積し共有でき、学生にも教職員にも使いやすいeポートフォリオの開発と活用がますます重要になってくる。

eポートフォリオの導入はアメリカにおいては2000年代頃から、日本では2005年頃から始まったとされている²。2002 (平成13) 年の中央教育審議会 (中教審) 答申「大学の質の保証に係わる新たなシステムの構築について」、さらには2008 (平成20) 年の中央教育審議会答申『学士課程教育の構築に向けて』において「学士課程教育の充実のための具体的な取り組みとして、学位授与の方針、教育課程編成、実施の方針、入学者受け入れの方針の三点」の明確化が求められて以降、大学における教育の「見える化」が義務付けられ、紙媒体やICTを活用したポートフォリオが急速に広まることとなっている。本学部では2010 (平成22) 年度から研修を開始しており、これからの課題はまだ多い。

2. 履修カルテについて

「履修カルテ」とは、2008（平成20）年度の法改正により、2010（平成22）年度入学の大学生から教員免許の取得を目指す学生が教職課程科目の「教職実践演習」を履修する際に必要となった履修記録を指している。履修カルテの具体的な記録方法は定められていないため、大学によって紙であったりExcelなどの電子ファイルであったりとさまざまである。しかし、対象となる学生の数とその利用頻度や保管の問題から紙での管理は現実的には考えにくく、学生が自分の履修記録を記載したExcelファイルを管理するというのも運用方法として煩雑である。そのため、この法改正に合わせてオンライン化されたシステムとしての履修カルテの導入が進んできている³。同時に、教職課程以外においても、前述の理由により学習成果の証左としてのeポートフォリオの導入が進んでいる。

2006（平成18）年7月11日の中央教育審議会（以下、中教審）答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」は、教職課程の質的向上をめざした総合的な改革を推進するために、教員養成・免許制度改革に係る3つの主要な改革提言、すなわち、教職大学院制度の創設、教員免許更新制度、教職実践演習の必修化を行った。鞍馬（2010）によると、教職実践演習は「教職課程を履修する学生が、教員として必要な資質能力を形成したのかどうかを4年次の後期に最終的に確認することを企図するもので、いわば、出口管理に通じるものであった。中教審は、この出口管理に加えて、学生の系統的な履修履歴を把握して必要な指導を行うなどのプロセス管理をも要求した」（p19）。ここに示された「学生の系統的な履修履歴を把握して必要な指導を行う」という考え方が広まり、入学から卒業まで、あるいは卒業を超えて生涯にわたって使えるeポートフォリオの開発が盛んにおこなわれるようになっていったのである。

教職課程において「履修カルテ」に記録されるべき項目については定められており⁴、当初は学生の自己評価が中心であったが、その後、医師が病歴や治療の過程を記録し保管するカルテと、学生がより主体的に学びにつなげるポートフォリオとの差異化に関する議論がなされ、その両者を一体化して学びのPDCAサイクルを回しながら学生一人一人の学修支援を行うツールとして発展してきている。教員養成を行う大学等では数百名にのぼる履修カルテを科目間の教員が共有し、4年間を通じて継続的に学修指導を行うためのしくみが確立されていった。この動きは他の専門分野や大学に広まり、現在ではすべての学生に対する履修指導の在り方として定着している。

これらの背景を踏まえ、本学のeポートフォリオは、学生自身が学びの記録を書き保管するという当初の紙媒体を発展させ、持ち運びできる書類（portable leaf）という意味が示すように、学生が学期ごとに自ら目標を立て、学び、各科目間の学びを統合して振り返り、記録して次の目標を立て、4年間を通じて交代する各チューター教員から継続的な指導や支援を受けるためのコミュニケーション媒体とすることを目的とした。したがって、学生は自ら記録する3つのシートをもち、これを見てチューター学生への指導を行った履歴を書き込む履修指導シートは教員側が有する。また、学科長がすべての学科生に対する学生の記録シート・教員の履修指導シートを確認することができ、学部長は両学科分を確認することとなっている。セキュリティの観点から、当面は学内からの入力・閲覧のみで運用している。eポートフォリオの運用を開始した2012年度は、まずは1年生から4年生まで全員（428名、2012年10月1日現在）に入力を促すことを目的に、9月28日に開催された後期オリエンテーションにおいて、2学科4学年に対し計8回の説明会を行ったところである。教員側の履修指導については、10月中旬にGPA2.0以下の学生に対して行った履修指導履歴の記録が終了している。特に1年生から3年生では半期あるいは年度でチューター教員が交代しており、今後、学修指導記録が教員間を超えて共有されていく一つの転機となったと考える。他大学に遅れてスタートするeポートフォリオであるが、全学部生の活用と組織としての定着化を図りたいと考える。

3 他大学のeポートフォリオ

全学向けとして大学に導入されているeポートフォリオは大別して3種類に分けられ、①プロプライエタリな（市販の）eポートフォリオシステム、②MaharaやSakai/OSPといったオープンソースのeポートフォリオシステム、③大学独自のeポートフォリオシステムがある。これらの違いと導入例について以下に述べる。

① プロプライエタリ⁵なeポートフォリオシステム

プロプライエタリな市販のeポートフォリオシステムの特徴としては、ベンダ⁶が作成した既成のシステムをパッケージとして導入するため、大きなカスタマイズはできないが、導入・運用のための費用を予測しやすく、ベンダによる広範なサポートが得られることが多いため、運用負荷も大きくない。例としては(株)朝日ネットのmanaba folio (導入例: 慶應義塾大学, 国際基督教大学, 立命館大学 ほか約100大学), インターレクト(株)のdotCampus portfolio (導入例: 神戸学院大学, 東京未来大学, 武蔵大学 ほか), (株)エミットジャパンのLiveCampus (導入例: 三重大学, 長崎ウエスレヤン大学) などがある。

② オープンソースのeポートフォリオシステム

オープンソースのeポートフォリオシステムはプログラムソースが無償で公開されているため、大学の特徴に合わせて改変を行うのが容易であるが、カスタマイズの範囲が大きいほどオリジナルのバージョンアップに対する作業などの手間が大きくなってしまいうというデメリットがある。また、オープンソースのeポートフォリオのカスタマイズや保守を有償で行うベンダも存在する。例としてはMahara (導入例: 広島修道大学, 酪農学園大学), Sakai/OSP (導入例: 熊本大学) がある。

③ 大学独自のeポートフォリオシステム

大学独自のeポートフォリオシステムは大学内で作成したか、特注のシステムであると予想される。これらは大学のニーズに合わせて作成されており非常に特徴的な機能を持っているが、見方を変えれば標準的なeポートフォリオシステムからは大きく離れてしまう恐れがある。例としては日本女子大学のロールモデル型eポートフォリオ, 鳥根県立大学のマトリクス型eポートフォリオ, 日本社会事業大学のeラーニングeポートフォリオなどがある。eポートフォリオシステムの現状はLMSと異なり、まだ、いわゆる「標準的な」eポートフォリオシステムというものは定まっていないうように感じられる。そのため、大学独自のeポートフォリオシステムを開発するための研究者、研究組織、ノウハウの取得、技術者といった要素が整えば、大学の特徴や学部の専門性、地域性や卒業生の動向などを考慮した使い勝手のよいシステムが構築できる可能性もある。

なお、本学部では他大学の先行例に学びながら、第三に上げた種類、すなわち大学独自のeポートフォリオシステムの開発を試みた。

4. Progress Sheetの開発と導入について

本学でのeポートフォリオシステムの導入の計画にあたり、当初はMaharaを評価してみたが、柔軟性が高い反面、明確な指針なしではどのようなコンテンツを掲載すれば良いのか判断に悩むことがあった。これは、本学においてeポートフォリオを導入するにあたり大きな懸念材料となった。たとえシステムとして優れていても、利用者が直感的に操作できないようであれば、敬遠されてしまうのではないかと判断したためである。

小川によると⁷、大学におけるeポートフォリオ構築の成功にはeポートフォリオ導入目的の裏側にある潜在的なさまざまな可能性について大学が十分把握していなければならず、eポートフォリオの機能としては授業における学習のアセスメントの支援のほか、機関や教育プログラムの認証評価、大学教員の昇進やテニューア獲得のための情報提供、生涯学習のための支援などが挙げられる。これらすべての目的を満足するまでeポートフォリオを活用できている大学はまだ少ないのが現状であり、1つか2つの目的にだけの絞ってeポートフォリオを導入し、その後時間をかけて徐々にその幅を広げていくのが一般的だとしている。本学部のeポートフォリオは学生の自主的な学びの促進が目的であったため、なるべくシンプルなユーザーインターフェイスによって学生が戸惑うことなく利用できる山口県立大独自のシステムとして開発・導入することとした。

先にも述べたように、本学部では教員が担当するチューター学生の修学状況などを紙のカルテとして管理していたが、基本的にチューターは半期(1~2年)あるいは1年(3~4年)ごとに担当を変更するため、引継ぎなどのファイル管理が煩雑であった。また、必要な時に目的のカルテを探す手間や、紛失の危険性が

あるなどの問題があった。その他、何を目的にカルテを書くのか、何に利用するのか、卒業後の管理などの課題もあった。これらをもとに基本となるシートの型を定め、機能として含めることとした。最終的に、eポートフォリオには学生向けに3つのシートを、また教員用には学生が入力した3つのシート閲覧機能のほかに履修指導記録シートをつける形とした。eポートフォリオ「Progress Sheet」の構造図については図1に、機能については表1に、また、ロール定義については表2に示した通りである。

① 履修モデルシート

正課科目の単位履修状況が学生の選択した履修モデルに沿ったものとなっているかを確認するシートである。卒業単位を確認する表とはなっていない。卒業単位及び履修モデルについては、入学時に配布する冊子「履修の手引き」を4年間使用するが、毎学期の履修登録時に必ずしも参照しておらず、履修モデルに沿った履修が行われていないことが懸念されていた。そこで、学部学科や系における専門性を身につけるために学期ごとに履修モデルを確認させる目的がある。これがのちに述べる自己評価シートで「身につける力」の振り返りを行うもととなる。

② キャリア形成シート

正課科目における特に顕著な学習成果、日本語や外国語をはじめとする各種検定や資格試験結果、特記されるべき課外活動や自主活動などを記録するようになっている。国際交流活動やボランティア、インターシップ、学外発表や報告、各種学生コンテスト等への参加、海外留学や実習成果などもここに含まれ、項目別に記録する。レポートや賞状、写真等のエビデンスを添付しておく。成長や失敗の軌跡を振り返り、次のステップを計画する資料とするほか、就職のエントリーシート作成時の参考とすることも目的である。

③ 自己評価シート

各学期の目標を書き入れ、学期終了時に振り返りを記入するシートである。また、各学科において定められた「身につける力」リストにそって自己評価を行い、結果をバランスシートで示す欄があり、成長の度合いをチャートで見られるようになっている。

④ 学修指導シート

上記3つのシートに入力された記録をチューター教員が確認し、学修指導の結果を記録する。1、2年次にはチューター教員が半期ごとに交代するため、このシートを引き継いでいくことにより指導も継続される。このシートは教員のみ利用となっている。各学期・学年ごとに注意すべき観点が記載されており、1年次は高校から大学への学びや生活の転換に関する確認項目、2年次は専門選択等への深まりやキャリア観形成に関する確認項目、3年次は専門性の発展や就職・進学への対応の確認、4年次は大学生活最終年の振り返りと将来に向けた意識の確認項目等を入れている。

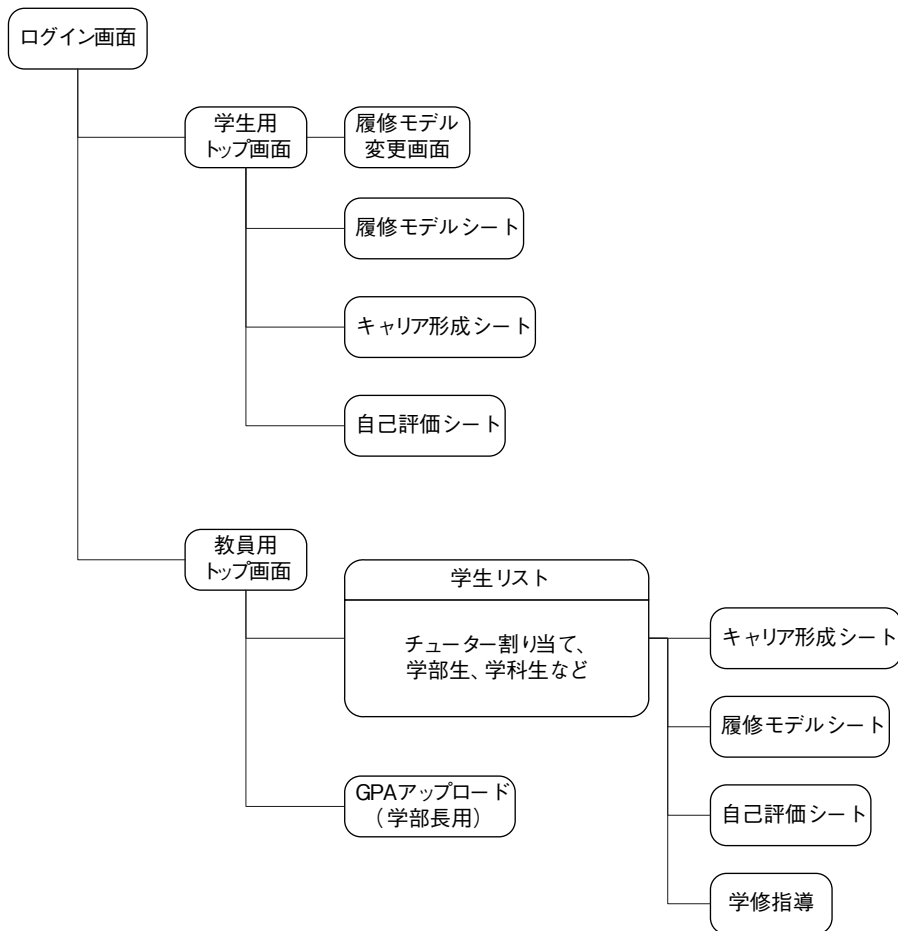


図1 Progress Sheetサイト構成図

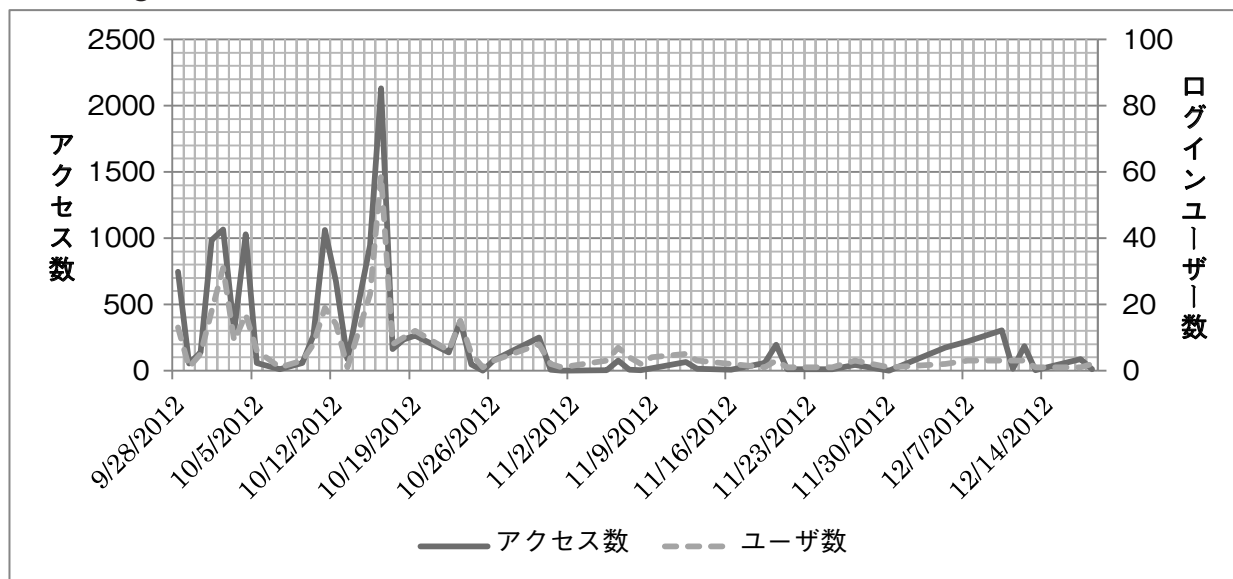
表1 Progress Sheetシステム機能

	学生	教員
履修モデルシート	履修科目を自己申告で入力。必修科目や重点科目等の履修状況の確認ができる。	内容を確認可能。
キャリア形成シート	取得した資格や参加した課外活動、検定結果、自主学習活動成果などを記録。	内容を確認可能。
自己評価シート	半期ごとの目標と達成状況の確認および学科ごとに定められた自己評価項目の達成度の確認。	内容を確認可能。
学修指導	閲覧不可	半期ごとの学修指導項目に対する結果を記入。過去の指導履歴が確認可能。

表2 Progress Sheetロール定義

	学生	一般教員	学科長	学部長
各種項目の閲覧	自己のみ	担当するチューター-学生のみ	自学科	自学部
各種項目の変更	自己のみ	不可	不可	不可
学修指導閲覧	不可	担当するチューター-学生のみ	自学科	自学部
学修指導記入	不可	担当するチューター-学生のみ	不可	不可
学修指導変更	不可	自己記入分のみ	不可	不可

図2 Progress Sheetの日毎のアクセス数とアクセスしたユーザー数



開発にあたっては、Linux + Apache + MySQL + PHPの一般的なLAMP環境での動作を前提としていたが、利用が進むにあたって後々出てくるとされる機能追加要求に対応しやすいようにZend Frameworkを利用して開発を行った。また、名称についても進歩するeポートフォリオシステムという意味を含めProgress Sheetという名称を付けている。開発期間が短かったため、WebサイトのデザインについてはTwitter Bootstrapをフロントエンドのフレームワークとして用いた。また、動作検証にかかる労力を必要最小限にするため、動作対象はInternet Explorer9やFirefox, Google Chromeの最新版などモダンなWebブラウザのみに限定した。

ベータ版の開発途中で、各学科の代表学生に試行的に入力を依頼し、改善点に関する助言を得た。さらに、学部の全教員にテスト利用を依頼したが、その際には用件定義では出なかった仕様要求があったため、細かな部分についていくつか修正の必要があった。その後、後期からの正式な運用が決定したが公開までに時間的に余裕ができたため、各機能の更新部分をページ遷移することなく動作するAjaxに書き換えて操作感の改善を図った。学部での本格的な利用の開始にあたって大きな問題も起こらなかったが、一部教員についてはIE7などの古いブラウザを利用しているため、一部操作に対して正常に反応しないなどの問題がみられることもあった。

5. Progress Sheetの今後について

2012（平成24）年10月に運用を開始したeポートフォリオ入力のアクセス件数は図2に示す通りとなっている。ユーザー数に対してアクセス数が多いのは、同じ学生が何度か入力を繰り返しており、ユーザー数はのびていないことがわかる。運用開始から3か月を経た現在、卒業を控えた4年生を除き、入力率は379名中168名の44.3%にとどまっている。半数を超えているのは1年生であり、2年生、3年生と進むにつれ入力率は下がる。今後は、学生の未入力者への指導を行うとともに、学生が2012年度後期の振り返りを行う2013年度前期開始時において、学生全員に対する履修指導を始める予定としている。

ユーザー数を向上させ、学生に対して、このシステムを自らのポートフォリオとして活用するという意識を定着させるほか、今後の課題としては次の6点が挙げられる。

① 学修指導体制の確立

eポートフォリオを教員側が履修カルテとして活用するしくみの定着が必要である。教職課程の履修カルテの思想が他の領域に応用され、多くの大学に広まっているが、この点に関するFDが必要となる。

② I R (Institutional Research) への活用

中期計画にそって、各部署において教育のエビデンスに関するデータ収集が求められ、紙ベースで異なる部署が異なるデータを学生に対して求めている現状にある。これらを一元的に収集し、I Rに活用するにはeポートフォリオの全学的な応用が必要であり、効果的でもある。

③ グローバル人材育成事業との統合

本学部は平成24年度文部科学省グローバル人材育成推進事業(特色型)に採択された。この事業では、入学前から卒業までを一貫した留学教育を行い、留学に関連する学びの成果が地域課題の解決に資するとともに、学生自身の卒業後にもつなげることを目指している。ここで育成する人材、すなわち「インターローカル人材」認定に関する活動をポイントとして積算するIPD(Initial Professional Development)を記入するシートや、インターローカル人材が身につける力を可視化するシート、さらには入学から卒業まで学生が自らの外国語運用能力や異文化間コミュニケーション能力向上の達成度目標を立てて振り返ることのできるマイ言語管理システム等を、現行のeポートフォリオに付け加えていく作業が必要となる。

④ 自己評価、ピアレビュー、教員評価の統合

Progress Sheetでは自己評価での評価に基づいている。しかし、構成主義的学習観においては、教員や他の学生からの評価により学習者自らが活動を振り返る機会が増加し、より多くのリフレクションが誘発されることが求められる(小川2012)。この立場に立つと、Progress Sheetはまだeポートフォリオとして十分であるとは言えない。この機能の検討と実装はProgress Sheetの課題であると言える。また、現在は、自己評価結果については自己の入力値の平均をチャートとして可視化するのみに止まっている。これについても、データの蓄積や評価が進むにつれて、前年度の学生の平均や前年度の自己との比較表示などを行うことが期待できる。また、入力モチベーションを上げるためには、学修指導に関する教員からの指導や助言、評価の一部が学生の活用するシートのほうに反映され、コミュニケーションツールとして学生の目に見える形で提供されることも必要である。

⑤ 新たなシートの追加

今回開発した本学部のeポートフォリオ「Progress Sheet」はZend Frameworkで開発されているため、機能の実装が比較的容易となっている。前述の相互評価機能のほか、LMS「WEBかるちゃー」からのデータ参照機能、基礎セミナーで行っている読書マラソンの記録機能、非常時の連絡先・安否確認機能などの追加も検討している。また、主体的な学びにつながる学生の自習時間数の確認、これを促進するための時間割やスケジュール記入表(空白時間の見直しと計画)、系独自の確認項目の追加等を行う予定である。

⑥ 効率的な運用

本システムは学内の認証基盤の都合により、結果的に教務の履修管理システムや学部のLMSとは異なるアクセス窓口とせざるを得なかった。将来的にはこれらのシステムの一元化を目指す。大学全体の教務管理システムとの統合は長期的な課題としつつも、まずはシングルサインオン技術によって学部内のLMSとeポートフォリオとの間でシームレスなアクセスが可能な仕組みを実現したいと考える。

おわりに

今回のeポートフォリオの開発と導入は、大学教育改革という大きな流れの中にある。学生の質の変化という学生側の状況と、高等教育の質保障という教職員や大学側の状況という二つの側面から、ますます重要視されることが予想される。複雑化するしくみではなく、ICTの活用により双方のユーザーにとって使いやすいシステムが構築されることが望まれる。特に人文系の学生や教職員にとって、ユーザーフレンドリーは必須である。同時に、eポートフォリオの導入は、学生にとっては主体的に自らの学びをつくっていく生涯

につながるキャリア育成という意識の確立につながる必要がある。記述される自己のプロフィールを大切に、見せる自分を意識する習慣をつけることが、自分づくりにつながる。また、教職員は自分の担当する科目や特定の領域のみに目を向けるのではなく、4年間の学生生活という時間軸上ならびにキャンパスという空間軸のなかで共有される履修カルテを活用して、学生を育てるプロセス全体に視野を広げる必要がある。eポートフォリオが、新しい教育の可能性を広げてくれると考える。

本研究は平成23年度山口県立大学学内助成金「YPU-GP」を活用して実現することができた。国際文化学部に対する大学からの支援に謝辞を述べる。

<参考文献・URL>

小川賀代「実践力重視の理系人材育成を目指したロールモデル型eポートフォリオ活用」

『日本教育工学会論文誌』31(1), 2007 pp51-59

小川賀代編『大学力を高めるeポートフォリオ：エビデンスに基づく教育の質保証をめざして』東京電機大学出版局 2012年

小川賀代「eポートフォリオを活用したマルチキャリアパス支援」2008年度～2011年度科学研究費研究

http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/fit/fit2007/fit2007program/html/event/pdf/4A02_2.pdf

大阪府立大学 富士通マーケティング (LMS+ポートフォリオ)

<http://www.fjm.fujitsu.com/news/release/2012/120830.html>

梶田将司 *Sakai and Open Source Portfolio*

http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/fit/fit2007/fit2007program/html/event/pdf/4A02_3.pdf

KAYO LABO ロールモデル型eポートフォリオ

http://mcm-www.jwu.ac.jp/~kayo_lab/research/portofolio/img/obutsu2008.pdf

京都大学 MOST, KEEP Toolkit + Sakai

http://bugs.ja-sakai.org/confluence/download/attachments/4555137/JaSakaiConf3_Sakai.pdf?version=1

CRESTEC Inc. eポートフォリオ事例紹介 日本女子大学, 三重大学ほか<http://www.e-portfolio.jp/introduction/index.html>

Sakai/OSP (Open Source Portfolio) オープンソースポートフォリオ <http://www.sakaiproject.org/>

佐賀大学高等教育開発センター ポートフォリオ <http://www.crdhe.saga-u.ac.jp/portfolio.html>

日本社会事業大学

<https://ssl.jcswclass.jp/learning/login.php>

https://ssl.jcswclass.jp/imgs/learning_tebiki.pdf

福井大学 JIBUNポートフォリオ

<http://www.jsps.go.jp/j-pue/data/kohyo/daigaku/A12011.pdf>

http://gp-portal.jp/material/refMaterial/1179_GP2009_outline.pdf

<http://gp-portal.jp/src/ippan/shoukaiPage.cfm?id=1179>

http://gp-portal.jp/material/refMaterial/1179_newsletter001.pdf

富士インターネット市民塾推進協議会・地域学習パスポート研究協議会『平成22年度 文部科学省委託事業 ICTの活用による生涯学習支援事業 (国内における実証的調査研究) 一人ひとりのeポートフォリオが社会に生かされる学習基盤の構築に関する調査研究 調査研究報告書 資料編』2011年

三重大学『平成23年度事業実績報告書 ユニバーサル時代に対応したネットワーク学習システムの整備等』

http://www.mie-u.ac.jp/disclosure/pdf/20120629_h23gyoumujiissekihokokusyo.pdf

南大阪地域大学コンソーシアム「平成20年度文部科学省戦略的大学連携支援事業選定プログラム 実践力のある地域人材の輩出 - キャリア教育効果測定システム」

<https://career.renkei-osaka.jp/top/sokutei/>

宮崎誠「eポートフォリオシステム評価- MaharaとSakai OSP -」『法政大学情報メディア教育研究センター研究報告』Vol.25 特別号 2011年 pp12-14

http://repo.lib.hosei.ac.jp/bitstream/10114/6867/3/vol25_05.pdf

宮崎誠他「eポートフォリオを活用した教育実践 - ミネソタ大学訪問調査報告 -」

日本教育工学会 第27回全国大会発表プログラム 2011年 pp463-464

<http://www2.gsis.kumamoto-u.ac.jp/~idportal/wp-content/uploads/2a-204-01.pdf>

(上記掲載すべてのホームページ検索, 2012年12月20日)

注

1 Webかるちゃーの運用については、「山口県立大学におけるe-learning個別利用者のアクセス頻度と大学内外におけるネット環境の整備」(研究ノート)で報告した。岩野雅子・浅羽祐樹・宇田川暢, 山口県立大学学術情報電子版(第5号)国際文化学部紀要 2012年 pp135-144。

2 小川賀代編『大学力を高めるeポートフォリオ:エビデンスに基づく教育の質保証をめざして』東京電機大学出版局 2012年。eポートフォリオの全体像を把握するための必読の書。筆者はまた、熊本大学主催の研究会からオープンソースeポートフォリオシステムについて多くを学ばせていただいた。

3 鞍馬裕美「教職課程における履修カルテとポートフォリオの導入に関する一考察」『帝京大学教職大学院年報』創刊号 2010年 pp19-28 <https://apps.main.teikyo-u.ac.jp/tosho/kyoushoku-1-03.pdf> (2012年10月9日検索)

4 2008(平成20)年10月24日に課程認定委員会が公表した「教職実践演習の実施にあたっての留意事項」と、「履修カルテの活用方法(例)」による。

5 ある特定のメーカーの製品のみを組み合わせで構築されたコンピュータシステム。これとは逆に、様々なメーカーの製品を組み合わせで構築されたシステムをオープンシステムという。ハードウェアからソフトウェアまで、必要なものをすべて1社から導入するため、不具合が生じたときに迅速な対応を期待できたり、原因の特定が比較的容易であるなどのメリットがある反面、他社の優れた製品を部分的にでも用いることができないというデメリットもある。IT用語辞典より引用。<http://e-words.jp/w/E382AAE383BCE38397E383B3E382B7E382B9E38386E383A0.html> (2012年12月10日検索)

6 製品を販売する会社。製品のメーカーや販売代理店のこと。ある特定の企業の製品だけでシステムを構築することを「シングルベンダ」、複数の企業の製品を組み合わせでシステムを構築することを「マルチベンダ」という。IT用語辞典より引用。<http://e-words.jp/w/E38399E383B3E38380.html> (2012年12月10日検索)

7 小川(2012), p4より。

国際文化学部「Progress Sheet」利用マニュアル（学生向け）

2012/09/28

1. Progress Sheet の利用に当たって

「Progress Sheet」は、山口県立大学国際文化学部オリジナルの e ポートフォリオです。みなさんの大学の学びや体験等を記録し、振り返り、次の目標設定をすることによって、大学時代に何をどこまで達成できたかを集積できる電子版ノートです。就職や進学時等のエントリーシート記入などにも役立ちます。

「履修モデルシート」「キャリア形成シート」「自己評価シート」の3つがあります。「履修モデルシート」は、あなたの履修計画が履修モデルに沿っているかを確認できます。「キャリア形成シート」は、大学生活で様々なチャレンジしたことを記録していきます。「自己評価シート」では、毎学期初めに目標を立て、学期が終わった時に成果を振り返ります。

2. 対応 web ブラウザについて

- Internet Explorer9、Firefox15.0.1、Google Chrome15 で動作確認をしています。それ以前のバージョンの web ブラウザでも動作すると思われませんが、動作保証はできません。
- Progress Sheet では項目変更時には AJAX を用いて変更内容をサーバに送信しています。その際、処理中であることを表すアニメーションアイコンがマウスカーソルそばに表示されるようになっていますが、Firefox の一部バージョンでは表示されないことがあります。

3. ログイン方法

- I. 山口県立大学の web サイトのリンクまたは、<http://progress.vpu.jp> を web ブラウザに入力してログイン画面を表示します。
(※現在はセキュリティ上の理由により、学内からのみ表示可能です。)
- II. ログイン画面が表示されますので、「WEB かるちゃー」で利用しているものと同じユーザ名、およびパスワードを入力してログインします。
- III. 大学から配布された ID、パスワードを紛失した人は、学生支援部（教務入試G）に学生証を提示して、再度もらってください。

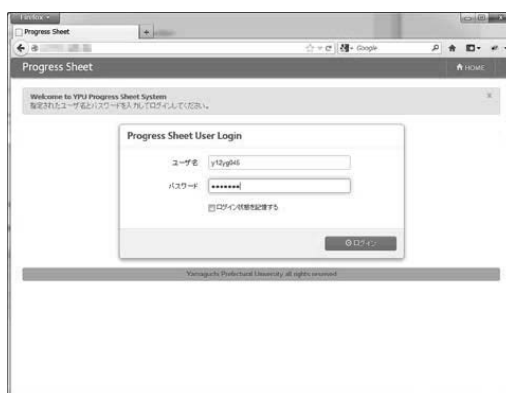


図 1 ログイン画面

4. ホーム画面

- I. 正常にログインできると、ホーム画面が表示されます。ここから「履修モデルシート」、「キャリア形成シート」、「自己評価シート」の各ページに移動することができます。
- II. 初回ログイン時には履修モデルを確認し、画面右側の「User Information」の項目の履修モデル欄にある「変更」ボタンを押して履修モデルを選択してください。
- III. 画面右上の「Home」ボタンにより、他のページからこのページに戻ってくるのが可能です。また、「Logout」ボタンを押すと、ログアウトします。



図 2 ホーム画面



図 3 履修モデルの変更

5. 履修モデルシート

- I. 履修モデルシートは講義の履修状況を登録することで、必修科目等の単位をどれだけ取得できているかをチューター教員との間で確認を行いやすくなります。
- II. 履修内容を登録する場合は、当該の科目の右端にあるドロップダウンリストより単位の履修・取得状況を選択してください。変更は自動的に保存されます。
- III. 単位を取得している場合はドロップダウンリスト左側の欄がピンクになります。また、旗のマークが表示されている場合は、マウスマウスカーソルを合わせると「必修科目」などの内容が表示されます。
- IV. 現在は「基礎教養科目群」と「専門教育科目群」のみが表示されるようになっています。
- V. 履修モデルシートは卒業単位を数えるものではありません。その他、「履修の手引き」を参照してください。



図 4 履修モデルシート

6. キャリア形成シート

- I. キャリア形成シートは取得した資格や参加した企画等を記録し、振り返りに役立てるための機能です。
- II. 青色の「新規作成」ボタンを押すと、「キャリア項目の新規作成」画面が表示されます。評価項目種欄の上側のドロップダウンリストから項目グループを選択し、その下のドロップダウンリストから評価項目を選択してください。
- III. 評価項目ごとに決められた評価リストから該当するものを選択し、自由記入欄に備考となる情報を記入してください。また、添付ファイルがある場合は1つのみ添付することができます。
- IV. キャリア項目の入力後は保存ボタンを押すと、入力内容が保存され、表示されます。各キャリア項目の右側にあるペンアイコンをクリックすると入力内容を編集できます。また、フォルダアイコンをクリックすると添付ファイルを閲覧することができます。この添付ファイルはアップロードした本人のみが閲覧可能です。
- V. 添付ファイルを削除する場合は、編集時に「ファイルを保持する」のチェックを外して更新ボタンをクリックしてください。
- VI. 同一の評価項目が複数ある場合（TOEICを複数回受験した場合など）は、以前の項目を更新せずに別途新規に登録してください。
- VII. 今までの実績をすべて記入してください。



図 5 キャリア形成シート

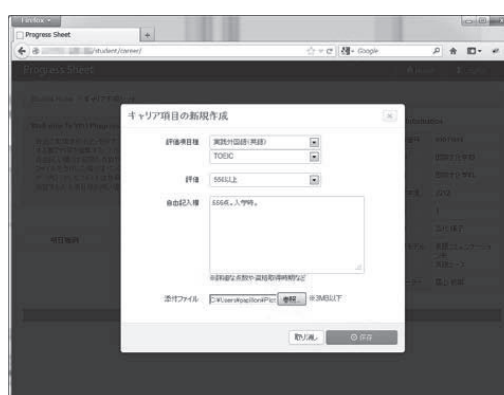


図 6 キャリア項目の新規作成



図 7 キャリア項目の追加後



図 8 キャリア項目の編集

7. 自己評価シート

- I. 自己評価シートでは各期の目標とその振り返り、自己評価を入力できます。
- II. ページ上部にある「〇年〇期」の項目をクリックすると、学期ごとの内容が表示されます。
- III. 目標と振り返りの内容は、入力後に保存ボタンをクリックして保存してください。
- IV. 自己評価項目は該当するものを各ドロップダウンリストより選択してください。変更内容は自動的に保存されます。全て入力した後に「自己評価チャートを表示」ボタンをクリックすると、各カテゴリごとの平均点がチャート表示されます。
- V. 前学期の自己評価を記入してください。
- VI. 今学期の目標を記入してください。
- VII. 学期の終わり、あるいは、次学期の初めに、チューター教員との学習指導のための面談があります。

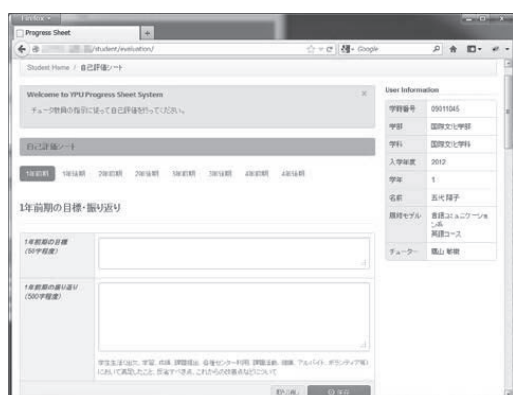


図 9 自己評価シートの目標・振り返り



図 10 自己評価シートの自己評価項目

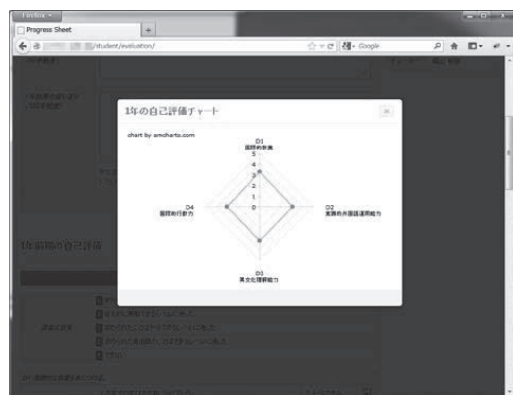


図 11 自己評価のチャート表示

